



Theme

買い物から挨拶

05 Lifestyle

男たちよ目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ

コ

コロナの影響で変わった多くの習慣のなかに、リアル店舗でのショッピングのマナーがありますね。入り口でのアルコール消毒と検温を必須とするところが増えました。

なかでも面白いなと思ったのは、入り口にピンクとグリーンのパンドを置き、「どちらの接客をお望みですか？」という案内板を置いた店舗の試みです。

店員に相談したい人はピンク、ひとりでゆっくり見たい人はグリーンのパンドを付けることで、自分が希望するサービスを受けられるようにしたそうです。これによって、場合によっては、店員とひと言も言葉をかわさずことなく、買い物をする事ができます。感染予防のためには良い方法であるとともに、これまで店員が話しかけてくることにストレスを感じていた多くの買い物客の気持ちを一掃にする、極めて日本的

なやり方にもあります。

現在は感染予防のためにできるだけ話をしないことが好ましいので、まあこの方式も良いでしょう。しかし、この際だから書いてしまっていますが、そもそも「店員とできるだけ話をしたくない、話しかけられたくない」という日本人に多い態度は、コロナ前から、奇異に見えていました。

海外のお店では、お店に入ると、必ず店員とゲストが「ハロー」と声を掛け合うことから始まります。

というのも、お店に入る、ということとはそのお店のゲストとして、その店のテリトリーに足を踏み入れることだからです。であれば、「ハロー」という互いの挨拶から始まるのは当然、というのが海外の発想。そもそも無言で他人の領域にすげすげ入り、店員の声も無視して商品を触り放題というのが失礼なのです。「お客様」はそんなに偉い

のでしょうか。

コロナの心配がなくなったあとでよいので、ゲストもショップスタッフもフェアな立場で、まず挨拶をかわし、ゲストが「ただ見るだけでもいい？」とひと言添えるマナーを日本にも定着させませんか？ あまり話しかけられたくない時は、言葉でそう伝えればよいのです。そうすれば、パンドなど付けなくても、しつこくつきまとう接客も少なくなり、互いに快適な買い物環境を作ることができるようではないでしょうか。

お店というのは他者のテリトリーであり、足を踏み入れるからには挨拶をかわすことから、という基本のマナーに「目覚めなさい」。ECの買い物を中心に変わったとしても、デートでふらつとお店に入る時に、きちんと挨拶する客にはお店の人のあなたへの扱い方が丁寧になります。結果、彼女があなたを見る目も変わります。



カトリーヌ10世 Catherine X

Profile グローバル化が進む社交界事情にも適じる。

密かな趣味は人間観察とコスプレ。

好きな飲み物はモンラッシュ。日本では

ほとんど知られていない、ある小国の女王とのウワサも？